アカデミー

2015. **12.12**(sat) 15:00-17:20 京モプラザホテル札幌

Session 1

教育研修施設リポート

*帯広厚生病院形成外科北村 孝*北海道がんセンター形成外科齋藤 亮*手稲渓仁会病院形成外科大澤昌之

Session 2

大学院生研究発表

*リンパ節移植の浮腫予防と転移制御塩谷隆太*神経再生におけるNeuregulin-1安居 剛*神経縫合部条件と軸索再生効果大野健太郎*静脈を利用したneurotizationの可能性大野健太郎*リンパ浮腫における炎症性細胞の発現岩嵜大輔*ケロイドにおける炎症と線維化の抑制藤田宗純*卵膜由来間葉系幹細胞によるケロイド治療佐藤千草

Session 3

特別セミナー「EPOCHS 2015」

❖ 悪性黒色腫薬物療法の新展開 前田 拓

❖専門医研修新制度の概要についての現状報告 古川洋志



代 表: 山本有平

事 務 局: 北海道大学医学部形成外科学教室

〒060-8638 札幌市北区北15条西7丁目

e-mail: info@prs-hokudai.jp

運営委員長: 小山明彦



PROGRAM

Session 1

教育研修施設リポート 15:00~15:45 (15分×3) Moderator: 林 利彦

▶ 帯広厚生病院 形成外科 北村 孝

▶ 北海道がんセンター 形成外科 齋藤 亮

▶ 手稲渓仁会病院 形成外科 大澤昌之

Session 2

院生研究発表 15:50~16:30(最終学年10分, 他5分) Moderator: 村尾尚規

「マウスリンパ節移植モデルにおける浮腫予防効果 ならびに悪性黒色腫転移制御に関する研究」

塩谷隆太

所属リンパ節郭清術施行後にリンパ組織を再構築することが、リンパ浮腫などの合併症に対する予防効果が有ることが近年報告されてきている。しかしおおもとの腫瘍治療に与える影響は検討されていない。そこで我々はマウス後肢リンパ浮腫モデル/悪性黒色腫細胞移植モデルを用いてリンパ節移植術のもたらす影響の検討を行っている。

「顔面神経損傷におけるNeuregulin-1の神経再生 促進効果と軸索誘導能についての基礎的研究」

安居 剛

現在、様々な成長因子を作用させることで神経再生を促進させる報告が散見される。そのなかで、われわれは他領域で促進効果が示されているNeuregulin-1(以下NRG1)に着目した。本研究ではNRG1の効果的な投与法、投与時期、投与部位を3つの実験により検証した。評価法は顔面神経麻痺スコア、神経トレーサー、軸索密度の3つを用いている。

「神経縫合部条件と軸索再生効果の関連性 ~ラット顔面神経再建モデルを用いた検証~」 大野健太郎

神経端側縫合部において、window sizeとneural sourceの状態の違いによる軸索再生の効果の違いについてラットモデルを用いて検証した。縫合条件を調整することにより、軸索再生効率に差がでることが確認された。このことは複数の縫合部を有することのあるネットワーク型再建において、軸索再生の配分を考慮した再建プランをたてる新たな方向性を示すことに応用できる可能性がある。

「静脈を利用したneurotizationの可能性」

大野健太郎

神経軸索再生と血管新生、特に血管内皮細胞とは密接の関連性があることがわかっている。そこで神経再建時に末梢端の神経が利用できない場合などに、末梢部の静脈を利用しその内皮細胞の影響および静脈網を介したneurotizationが期待できないかを動物モデルでの証明を目指す。

「マウス後肢リンパ浮腫モデルにおける

炎症性細胞の発現に関する検討」

岩嵜大輔

われわれはマウス後肢のリンパ浮腫モデルを使用してリンパ浮腫の病態を解明しようとしている。リンパ浮腫においては慢性炎症が惹起され、難治化する原因の一つとされている。炎症性細胞の中で特にマクロファージはリンパ浮腫の病態に深く関わるとされる。リアルタイムPCR、ウエスタンブロッティングなどの分子生物学的手法によりマクロファージのリンパ浮腫組織における役割を検討した。

「ケロイドにおける炎症制御機構と

線維化抑制機構の研究」

藤田宗純

ケロイドは線維芽細胞のコラーゲン産生の増加と持続する炎症を特徴とする疾患である。我々は実際のケロイドの病態として免疫抑制性の制御性T細胞(Treg)のケロイド局所内での低下や抗炎症性サイトカインであるIL-10を介した炎症制御機構や線維化抑制機構の破綻を想定して(Murao et al, 2014)検証を進めている。現在までに得られている知見について報告する。

「卵膜由来間葉系幹細胞のケロイド治療への応用」 佐藤千草

間葉系幹細胞には免疫調整作用、抗炎症作用、抗線維化作用、 創傷治癒促進作用があり、ケロイドの病態である炎症、線維化、 創傷治癒の遷延に対し抑制的に働く可能性がある。分娩時に破棄 される胎盤からドナーの侵襲なく大量に得ることができる卵膜由 来間葉系幹細胞をケロイド線維芽細胞に作用させその効果を検証 している。

Session 3

特別セミナー「**EPOCHS 2015**」 16:40~17:20 Moderator: 七戸龍司

悪性黒色腫薬物療法の新展開

(10分)

前田 拓

海外では2011年に悪性黒色腫に対する新たな分子標的薬としてイピリムマブとベムラフェニブが承認され、本邦でも、2014年7月にニボルマブが承認された。近年Evidence-based medicineとして化学療法レジメンが整備される中で、新たな抗がん剤の登場によりその治療の質がますます問われる時代になっている。新規薬物療法の概要について述べたい。

専門医研修新制度の概要についての現状報告 (30分) 古川洋志

現在、形成外科を含め基本の学会が行っている専門医の認定と 更新事業は、今後日本専門医認定機構が行うことになった。それ にともない、専門医の認定と更新に必要な要件も変更される予定 で、今年の専門医更新事業からすでに新しい専門医への移行が開 始される。また、専門医取得のための専攻医の研修も、日本専門 医認定機構が認めたプログラムと施設群で4年間行われなければ ならず、来年春にプログラムと施設群、専攻医の定員を、初期研 修医に公開する必要があり、北海道における施設群の構築とプロ グラムの策定作業が本番となっている。現状を報告する。